LRT のある広場の 30 年後を考える― JR 宇都宮駅東口広場の提案―

BR16098　渡部雄貴
指導教員　鈴木俊治

1. 研究の目的

宇都宮市は栃木県の中心都市で、LRT の整備が進められている。また、他の都市同様少子高齢化社会を迎え、まちなかの活気が失われることが危惧される。活気を生み出すには滞留空間が必要だが、駅東側のみならず市中心部にもあまりない。そこで、LRT の開業を活用し、30 年後も生き残ることを目指し、賑わいを生み出すために人が集まる駅前広場を整備することを目的とする。

2. 対象地：JR 宇都宮駅東口広場

2-1. 対象地概要

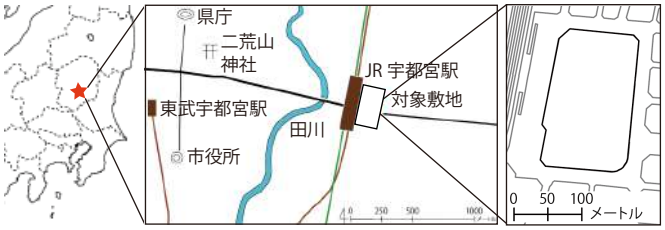

図 1　対象地区の位置

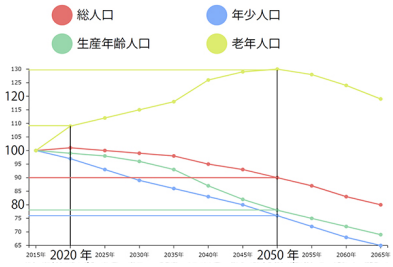

図 2　将来人口推計
（2015 年を 100 としたとき）

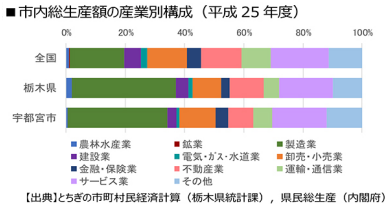

図 3　産業別構成

宇都宮市は栃木県の中央部に位置する人口約 51 万人の都市で、今後人口減少と少子高齢化が見込まれる。駅西側の二荒山神社周辺が市の中心部で、JR 宇都宮駅は中心部の東側に位置している。東京までは新幹線で約 50 分の距離で利便性は高い。また、餃子のまちとして知られている。主要産業は製造業とサービス業である。

駅東側地区は農村であったが、昭和後期から宅地開発が進められ現在は高層マンションも多数建っている。少し離れたところには宇都宮工業団地や清原工業団地等の大規模な工業団地が存在する。

2-2. 対象地現況

駅東口広場は留置線の跡地である。バス停、タクシー乗り場、一般車乗降所が整備されているが、中央の広い空間は仮設の駐輪場や駐車場と餃子屋があるのみで、滞留空間はない。周辺は閑静な住宅街であり、駅前通りには居酒屋、学習塾、オフィス等が建ち並ぶが、活気があるとは言えない。

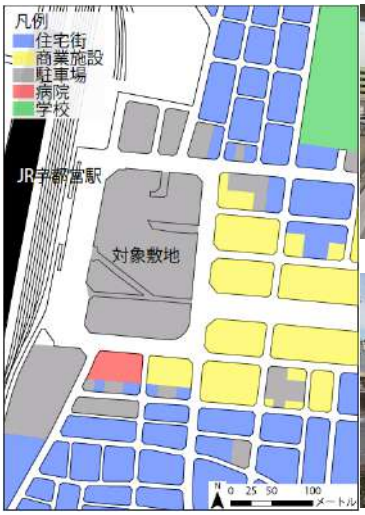

図 4　周辺現況図

図 5　対象敷地の写真

図 6　整備された乗降場

2-3. 対象地の将来計画

2022 年度に、駅と東側の工業団地を結ぶ LRT が開業する。それに合わせ、野村不動産を筆頭とする複数企業により駅前広場が再開発される。コンベンション施設を中核とした複合開発で、他に商業施設、病院、高級ホテル、オフィス、生活サポート施設、分譲マンションが計画されている。また、この広場は LRT を中心としたコンパクトシティ計画の拠点の一つに位置付けられている。LRT は将来、駅西側の中心部へ延伸する予定である。

3. 問題点・課題

3-1. 30 年後の宇都宮の想定

30 年というのは世代が交代するサイクルである。つまり次世代の宇都宮を想定する。

(1) 少子高齢化が進むが、LRT 中心のまちづくりが進んでいるため交通利便性が確保されている。

(2) 駅西側へ LRT が延伸しており、市中心部へのアクセスが容易になっている。

(3) LRT と駅前広場により、商業施設が人で賑わう、活気のあるまちなかになっている。

(4) 働き方が変わり、会社の外で仕事をする人が増える。また、女性の社会進出が増えている。

3-2. 現状の問題点

(1) 駅という人が集まる場所だが、滞留空間がない。

(2) 商業施設が少なく、賑わいがない。

(3) 交通結節点としての機能が弱い。

3-3. 提案に取り入れる内容

(1) 人々がくつろげる広い滞留空間。

(2) 賑わいを生み出すための商業施設。

(3) コンパクトシティの拠点となる施設。

4. 提案

4-1. コンセプト

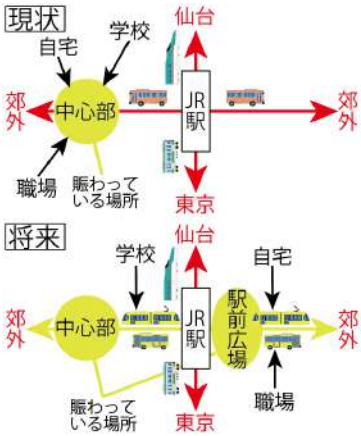

図 7　コンセプトダイアグラム

LRT と共存し、賑わいを生み出し魅力を発信する広場。

LRT は職場や家とまちなかを結ぶ。その LRT が乗り入れる広場は、賑わいがありくつろげる、魅力的な場所となるべきである。また、活気は広場内のみで完結せず、沿線にも波及する提案とする。

4-2. 設計概要

図 8　動線及び配置図

JR 宇都宮駅東口広場は、LRT 停留場のある広場と、それを囲う商業エリアの建物からなる。JR 駅へ通じる連絡通路への階段が広場の中央にあり、階段を中心として放射状に道が伸びている。階段の南には LRT 停留場がある。

動線について、計画対象地区内に入れるのは LRT と歩行者・自転車だけとする。バスや乗用車は敷地の周囲の道路を走ることにより、動線を分離する。また、駐車場は計画対象地区の地下に設けることで、地上は歩行者中心の空間とする。LRT の軌道は広場を横切り、停留場は広場の中央付近に設ける。歩行者の主な動線を二つ設け、その動線沿いには商業施設が建ち並ぶことで賑わいを生み出す。

広場には、広いオープンスペースに LRT 停留場と屋外イベント場がある。この広場では、休憩や待ち合わせをしたり、イベントを楽しんだりできる空間である。広場に閉そく感を与えないため、囲っている建物は低層である。建物はガラス張りなので、建物内から広場の景色やイベントを楽しんだりできる。屋外イベント場は、JR 駅へ繋がる連絡通路の前にあり、広場の広い範囲から見ることが出来る。また今後異常気象が増加することを見越して、この広場は停留場を含めて大屋根で覆われているので、悪天候時も活動できるようになっている。

図 10　広場のイメージ

商業エリアでは、賑わいを生み出す工夫をする。一階部分は飲食店や衣料品店などの店舗とし、通りに賑わいが生まれるようにする。二、三階部分は、飲食店の他に宿泊施設や入浴施設など休憩できる施設、市役所の出張所など公共施設も設ける。また、働き方が変化することを見越してワークスペースや会議室を設けたり、女性の社会進出を見越して託児所や保育所を設けたりする。

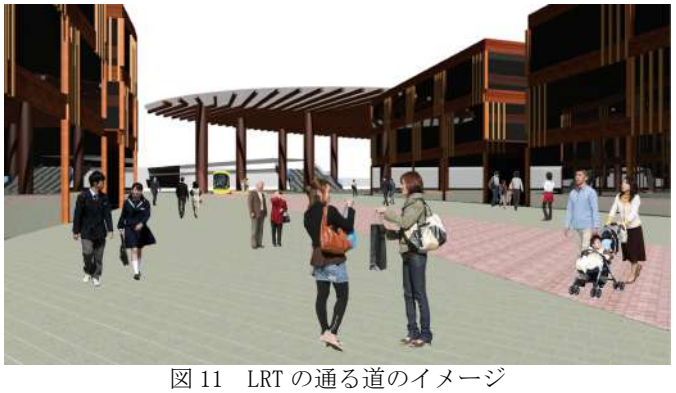

図 11　LRT の通る道のイメージ

建物と大屋根にガラスと木材を用いることで、開放感と温もりの印象を与える。

4-3. SDGs

11）提案する駅前広場により、少子高齢化社会を迎えても活気のあるまちにする。

13）屋根のある広場により、異常気象の際でも屋外で快適に過ごすことが出来る。

5. まとめ

本提案により、少子高齢化・人口減少が続き環境が変化する 30 年後でも、LRT を活用することで宇都宮を賑わいのあるまちにすることができる。

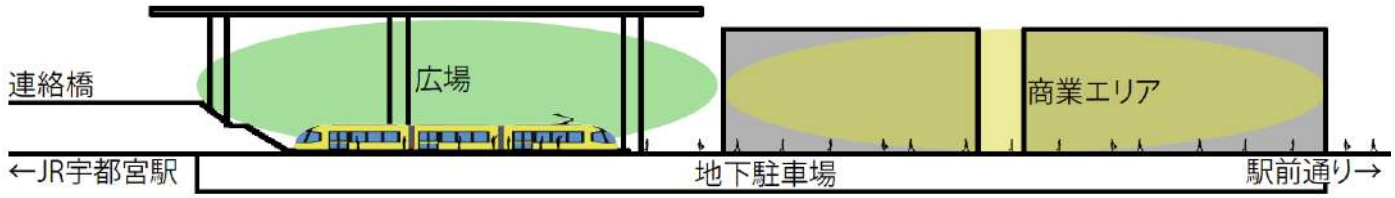

図 9　対象敷地断面図